

梨泰院惨事トラウマ訴える人の83%が 20～30代…同年代の犠牲の衝撃か

登録:2022-12-02 06:17 修正:2022-12-02 07:09

韓国心理学会、1カ月間無料心理相談支援
来談者の46%は惨事の「間接的な目撃者」
学会「中長期の心理支援が必要」



梨泰院惨事が起きてから1カ月が過ぎた先月28日午後、ソウル龍山区梨泰院惨事現場に市民が置いていった白い菊が茶色に変色している＝ペク・ソア記者//ハンギョレ新聞社

梨泰院（イテウォン）惨事以後、トラウマの症状を訴え、心理相談を受けた人々の半分近くがメディアなどを通じて惨事を「間接的に目撃」したことが分かった。また、相談を受けた10人のうち8人は20～30代で、犠牲者と同年代の衝撃が大きかったものとみられる。

韓国心理学会と国民の力のソ・ジョンスク議員室は1日、ソウル汝矣島（ヨイド）の国会で「災害状況でのトラウマ克服のための心理支援政策討論会」を開き、この1カ月に行われた梨泰院惨事関連心理相談の現況を発表した。

心理相談支援は惨事発生翌日の10月30日から11月26日まで二二一人を対象に行われた。相談は学会所属のボランティアによって無料で進められた。1か月間、電話や対面、メタバースなどで1対1の相談を受けた市民221人のうち101人（46%）は、メディアなどを通じて梨泰院惨事を間接的に目撃した人たちだった。惨事を直接目撃した人は71人（32%）で、惨事を直接経験し、負傷や死の脅威を感じた人は19人（9%）だった。さらに惨事で死別を経験した人（11人・5%）や惨事被害者の知人および助力者（10人・

4%)などが相談に訪れた。

相談を受けた市民10人のうち8人は20～30代だった。来談者のうち20代と30代がそれぞれ48%、35%で、計83%を占めていた。犠牲者と同年代の若年たちの心理的衝撃が大きかったものとみられる。

韓国心理学会のチェ・ヒョンジョン災害心理委員長(忠北大学心理学科教授)は「若い世代でない場合、子どもや孫を亡くした親や祖父母が相談を申請した場合があった」と説明した。性別で見ると、女性が相談を受けた割合が76%で、男性は20%だった。4%は性別が確認されていない。

惨事を直接目撃した人たちは、現場の記憶が繰り返し頭に浮かび、罪悪感と悪夢に苦しんでおり、人が多い時や街でサイレンの音が聞こえると深刻な恐怖を感じるなどの症状を多く訴えたという。間接的な目撃者たちも喪失感や罪悪感、国家が自分を守ってくれないという不信感、希望が持てないなどの反応を示したという。チェ委員長は「死別を経験した方々は圧倒的な喪失感や混乱、情緒不安定などを訴えた」と話した。

安定的な心理支援の必要性も提起された。チェ委員長は「3カ月～2年を『亜急性期』(急性期と慢性期間の急激ではない病気の進行段階)と定義し、この時に十分な回復環境が整えられなければ心的外傷後ストレス障害(PTSD)のように病状が慢性化する恐れがある。トラウマ専門心理士の心理支援が必要な時期」だと指摘した。

ソ・ヘミ記者(お問い合わせ japan@hani.co.kr)

https://www.hani.co.kr/arti/society/society_general/1069820.html 韓国語

原文入: 2022-12-02 00:48

訳 H. J

関連記事

- ・ [\[寄稿\] 梨泰院惨事から1カ月…「指示」なしには動かない国](#)
- ・ [18歳でセウォル号、26歳で梨泰院…同年代の葬儀はこれが最後でありますように](#)
- ・ [再び梨泰院を訪れた生存者たち…「もっと多くの人を救えなくて申し訳ない」](#)
- ・ [子どもを失い、残ったのは「長い闘い」…梨泰院惨事、国家賠償の3つの争点](#)
- ・ [「大統領が公式謝罪せよ」…梨泰院の遺族、公開の場で初めて心境明らかに](#)

再び梨泰院を訪れた生存者たち…「もっと多くの人を救えなくて申し訳ない」

登録:2022-11-24 10:17 修正:2022-11-24 11:33

【哀悼の記録】 生き残った人々の苦しみ



7日午後、ソウル龍山区の梨泰院駅1番出口に貼られた追悼の言葉を市民たちが眺めている＝シン・ソヨン記者//ハンギョレ新聞社

「あの日」、一人でも多くの人を救えなかったという罪悪感と後悔、狭い路地から自分だけが抜け出したという申し訳なさ。3584個のメモの中で生存者が書いたと見られる28の付箋のメッセージには、惨事当日に同じ時刻、同じ場所にいた生存者たちと救助活動に参加した人々の「告白」が書かれていた。

梨泰院駅を再び訪れた生存者は、「助かった」という安堵よりも「自分だけ生き残った」という申し訳なさを付箋に書き残した。惨事当日、事故現場にいたというある市民は「同じ日、同じ時間、同じ場所にいたのに自分ひとり無事に帰り、親にも会えて抱きつくことができたことで、心が重い。無事に帰った私でさえも、家の前を通る救急車のサイレンの音を聞くと息ができなくなるのに、記事を見ただけで心臓が締め付けられるのに、遺族の方々はどれほどひどい苦痛だろうか。また当時どれほど大きな苦痛を感じただろうか、想像もつかない」と書いた。



7日午後、ソウル龍山区の梨泰院駅1番出口前の追悼空間を訪ねたある市民が「29日に現場にいた」と言い犠牲者のための追悼メッセージを書いて貼った花束を置いて行った＝パク・チヨン記者//ハンギョレ新聞社

自らのことを「生存者」だと明らかにしたある人はこう残した。「夢中で心肺

蘇生をしていた。私がもう少ししっかりしていたら、『一人でも多くゴールデンタイムを逃さずにはいられたんじゃないか』という無念さと悔しさに苛まれる。私の前で『助けて』と叫んでいた人の顔が思い出される。救助された時は息が止まった状態だった。私も当時死ぬほど余裕がなかった。申し訳ない。私がもう少し力が強かったら『持ち上げてでも助けることができただろうか』、そんなことを思う」

現場にいたという別の市民は「その場にいた人のうちの一人として、何もできずただぼんやり眺めていた。今になって振り返ってみるととても悔やまれる。私が必死で（犠牲者の方々を）助けようと努力していたら生存者が一人ぐらいは増えたのではないかと思う。故人の冥福を祈る。忘れない」と書いた。生存者とみられる人のメッセージには「すれ違っていった皆さんを捕まえていたら、一人でも多く生きることができただろうか。一人で出てきて申し訳ない」とあった。

梨泰院駅の追悼空間には、自責の念と申し訳なさ、トラウマを負った市民たちが互いに慰め合う連帯が生まれてもいた。救助活動に参加したというある市民が「ためらうことなく駆けつけてCPR（心肺蘇生法）をしていたら一人でも多く助けることができただろうに、勇気を出せなくて申し訳ない」と書くと、「横にメッセージを貼った方、あなたのせいではない。自分を責めないで」という付箋がつけ加えられていた。「生き残った方々…。自分を責めず心の安定を得てほしい」「助けてくださった多くの方、罪悪感を持たずに生きてください。私たち皆がこの事件を忘れないように」など、梨泰院を訪れた市民たちは各自の言葉で惨事後に傷ついた人々に慰めの言葉をかけていた。

「これ以上惨事が繰り返されてはならない」という誓いも多かった。警察公務員になるために準備中の20代の青年であることを明かした人は「今回の惨事を忘れない。国の助けが必要な時、真っ先に向き合うのは警察だ。国民が安心できる国、警察官になって責任を負う」と書いた。

「もしかしたら友達だったかもしれず、もしかしたら弟や妹だったかもしれず、もしかしたら兄だったかもしれず、もしかしたら私だったかも知れないあなたたちを守ってあげられずに見送ってごめんなさい。私たちが最後まで問います。あの日国家は、公権力の上層部は何をしたのか、国の役割とは何なのかを」「私にとって梨泰院は幸せな経験でいっぱい、一番好きな町です。皆さんの梨泰院はどんなところでしたか。安全で楽しい梨泰院のために私も気持ちを添え、行動を示したいです」

どのように分析したか

ハンギョレ梨泰院惨事取材チーム（コ・ビョンチャン、クァク・チンサン、

パク・チヨン、ソ・ヘミ、イ・ウヨン、チャン・イエジ、チャン・ヒョヌン、チヨン・グァンジュン、チェ・ユンテ記者）は、10月30日～11月7日、地下鉄6号線梨泰院駅1番出口周辺の追悼空間に市民が貼った追悼メッセージを356枚の写真に全て撮った。メモが重ねられたり毀損されたりして分かりにくいものを除いた3584件の追悼文を選び、一つ一つテキストで入力した。ハンギョレメディア企画部技術チームはこのようにして集まった14万8398文字を形態素解析器を利用して文字列を分類した後、助詞などを除いて11回以上登場する単語275個を選び出した。

パク・チヨン記者（お問い合わせ japan@hani.co.kr）

https://www.hani.co.kr/arti/society/society_general/1068641.html 韓国語

原文入力:2022-11-24 08:42

訳 C.M

関連記事

- ・ 韓国国会、大統領室も梨泰院国政調査の対象に…24日から45日間実施
- ・ 子どもを失い、残ったのは「長い闘い」…梨泰院惨事、国家賠償の3つの争点
- ・ 「大統領が公式謝罪せよ」…梨泰院の遺族、公開の場で初めて心境明らかに
- ・ ソウル、過密解消で人間らしく暮らせるまちに